

海の時間 魚の活動周期を知る

潮汐（ちょうせき）とお食事タイムの関係

人間は時計の示す時間にしがたい、多くの人は1日に3回食事を摂ります。では魚たちは、どんなタイミングで食事をしているのでしょうか。それには、潮の満ち引きが、大きく関係しています。

1日にほぼ2回ずつくり返される干潮と満潮（潮汐）。「上げ潮」と呼ばれる干潮から満潮に向けて水面が上昇する時間帯は、潮の流れが岸向きになるため小魚の餌となるプランクトンなどの生物が岸側に寄ってきます。これを追ってくるのが沖にいた魚たち。お食事モードになっているものが多く、釣りに最も適なタイミングになります。

逆に「下げ潮」と呼ばれる、満潮から干潮に向かい水面が下降する時間帯は、潮の流れは沖に向かい、川からの流れが増えるため河口域の生物たちが活気づきます。

魚の餌となるプランクトンは遊泳能力が低いため、潮の流れに乗って移動をします。潮が動くと、餌が運ばれてくることを魚たちは知っているのでしょう。潮が止まっている間はひっそりと転石の間などに身を潜めているメジナの群れが、潮が動き出すとともにいっせいに浮上し、流れてくるプランクトンをついばみはじめることも。臆病な性格で、普段は敵に襲われないよう、また無駄な体力を使わないように、物陰に隠れる習性があるメジナは、餌にありつける絶好のタイミングで効率的に食事しているのです。

「朝マヅメ」と「タマヅメ」

釣りでチャンスタイムとされる「朝マヅメ」「タマヅメ」も、魚が餌をよく食べる時間として知られています。

明るくなり始めてから日の出までの「朝マヅメ」は、植物プランクトンが光合成のために水面に浮上します。また、暗くなり始めてから日没までの「タマヅメ」は、夜行性の動物プランクトンが浮上してくる時間帯です。

餌とするプランクトンの違いによって食事時間が異なり、活動する魚の種類も変わりますが、これらのプランクトンが移動する時間帯は多くの小魚が動き、それにともないスズキなどのフィッシュイーター（肉食性）の魚も獲物を追って活発に動きます。

また、夜明けや夕暮れの薄暗い時刻は敵から見えにくいため、臆病な魚たちも警戒心が薄れ、捕食活動をはじめます。

こうして、「朝マヅメ」「タマヅメ」は多くの魚のお食

事タイムとなるわけです。

ここにあげた他、昼に活動する魚と夜に活動する魚、また季節などによっても食事の時間は変化をします。



■干潮時

潮が引いて、複雑に入り組んだ岩場が現れている。



■満潮時

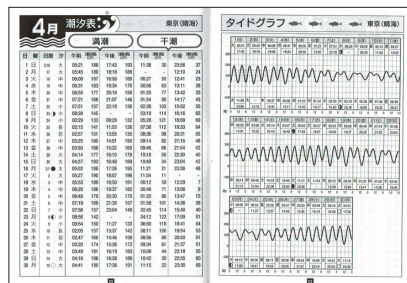
潮が満ちて、海面から出た岩が少なくなっている。

海の活動には必須の『潮見表』

一日ごとの潮汐や日の出・日没時刻が記されている潮見表のチェックは、海の活動をするうえでは必須事項。

岸壁で釣りをするときには、「上げ潮」のタイミングを狙うために、最大満潮時間を調べて1～2時間前からはじめる計画を立てます。また、磯あそびや潮干狩りの場合は、最大干潮の時間を調べ、その前の潮が引くタイミングで実施をします。大潮・小潮、季節による昼と夜の潮汐の差なども調べて計画を立てましょう。

『潮見表』は釣具店などで無料配布をしている他、WEBサイトでも調べることができます。



- 気象庁 潮汐・海面水位のデータ 潮位表
http://www.data.jma.go.jp/kaiyou/db/tide/suisan/
- 釣割タイドグラフ tide.chowari.jp/
- フィッシングラボ 日本全国の潮汐（タイドグラフ）情報
www.fishing-labo.net/modules/tinycontent/

釣具店で配布している潮時表。日付別に、満潮・干潮の時刻と潮高（cm）が細かく書かれている。右ページの『タイドグラフ』を見れば大きく潮が満ちる日、引く日が一目瞭然。『2018潮時表』（発行：キャストイング）

夜はしっかり眠る？「昼行性」の魚たち



■ハゲブダイ 昼行性 夜は、粘液の膜で体を覆って眠っている。



■ヤマブキベラ 昼行性 岩陰などで、寄りかかるようにして眠る。

陸上生物に「夜行性」と「昼行性」がいるように、魚にも「夜行性」と「昼行性」のものがいます。

ベラの仲間は昼行性で、なかには夜は砂に潜って眠るものもいます。日没近くになると、尾ビレで砂をかき分けて体を沈め、翌朝日の出ごろにまた泳ぎ出します。おもしろいことに、冬期水温が14度ぐらいに下がると、砂に潜って冬眠をするものも。

ベラの近縁種であるブダイ科のなかには、アオブダイやハゲブダイのように、自分で粘液の膜をつくり、体を覆って眠る魚もいます。このようなことをする理由は、「寄

生虫よけ」「夜行性の捕食者に見つからないように匂いを消すため」などの説がありますが、はっきりとしたことはまだわかっていません。

視覚と味嗅覚を頼りに昼間餌を探すシロギスも、夜は基本的に餌を探しません。釣りをするときはゴカイを餌に使用しますが、波の静かなときのほうがよく釣れます。これはしけで海底が濁ると、餌が見えにくいためといわれています。

「夜」は水中を漂う“匂い”と“味”で餌探し！?

一方、夜行性のメバルは、昼間は岩の割れ目など少し暗い場所にじっと潜んでいて、夕方になると活発に泳ぎ出し餌を探します。餌は、魚類をはじめ、エビ、カニなど。ただし、夜のため視力はほとんど効かず、餌探しはもっぱら匂いと味が頼りです。ちなみに、魚は口に入れなくても、水を介して味を感じることができるといわれています。このように嗅覚が発達して、鼻を使って餌探しをする魚には、メバルの他にカサゴなどがいます。

夜行性のメバルですが、じつは浮遊生活をする稚魚のころは「昼行性」で、イサザアミなどの小型甲殻類を食べています。また6cmほどの幼魚期は藻場でくらし、やはり小型甲殻類のワレカラやウミセミなどを食べます。そして2～3年で成熟すると、藻場を離れて岩場に生活の場を移し、このころから夜行性が強くなります。

多くの魚は、成長段階にもよりますが「夜行性」「昼行性」に分けられます。とはいっても「夜もしくは昼しか餌を食べない」というわけではなく、積極的に摂餌しないというだけで、餌が目前にくればもちろん食べることもあります。



■アカメバル 夜行性

眼は大きい。餌探しにはおもに鼻を使う。

■カンムリブダイ 昼行性

昼間は群れで泳ぎ、夜はサンゴや岩陰で眠る。